

鳥上、横田、馬木で 地区民体育大会

九月七日、鳥上、横田、馬木地区で地区民体育大会が開催されました。

保育所、幼稚園の園児からお年寄りまで多くの方が会場に集まり、チームのために各競技に心地よい汗を流しました。

会場となった小学校のグラウンドでは、一日中賑やかな声援で盛りあげられました。



▲チームのために走れ!!「全校リレー」(鳥上地区)



▶横田保育所園児も初参加
「バレーン演技」(横田地区)



▶みんなの歩調を合わせて
「ムカデ競走」(馬木地区)

進路選択の一助に 中学生が職場体験学習

八月二十六日から九月五日までの五日間、仁多、横田両中学校の三年生が進路学習の一環として、職場体験学習を行いました。

奥出雲町では、中学生に職業観、勤労観を養い、将来の目標に目を向けてもらおうと文部科学省の「キャリア教育推進地域」の指定を受け、地域の事業所などの協力を得て実施しています。



▶防火服を身にまとい、真剣に放水作業に取り組む

奥出雲病院三階病棟では、配膳や食事の介助、シートの交換などを行いました。

生徒からは「患者さんの『ありがとう』のひと声がとても励みになり、やりがいのある仕事だと感じた」、「思った以上に体力がいる」など感想がありました。



▲患者さんにやさしく声をかけながら食事の介助

期間中は、地域全体で次世代を担う子どもを育成する機運が高まり、子どもたちの進路選択の大きな支援となりました。

「ご協力いただいた事業所の皆様ありがとうございました。」

斐伊川流域88kmの旅

おろちウオーク

八月二十二日から三日間の日程で第八回「おろちウオーク」が開催されました。

北は北海道から南は熊本県までの全国各地から約五十人の参加があり、出雲神話の舞台となった斐伊川流域に沿って、源流である船通山から斐伊川河口までの八十八キロを踏破しました。

地元からも十五人のデイリー隊も加わり、初日は船通山山頂までの十キロに挑戦し、オロチが住んだとされる鳥上滝やブナ林などを巡り、悠久のロマンに思いをはせました。



▶しつかり準備運動



▶斐伊川河口を目指し出発

二日目は、雲南市吉田町までの三十六キロ、三日目は、出雲市の斐伊川河口までの四十二キロを歩きました。

参加者は、のんびり、ゆっくりと歩きながら、出雲地方に自然の恵みをもたらした斐伊川のロマンに触れ、神々の故郷である出雲の國の歴史と暮らしをしのびました。

夏の思い出を作ろう

サン・レイクで一泊研修

公民館の共催事業として行われている一泊研修が、八月二十六日、二十七日、出雲市の「県立少年の家・サンレイク」で行われ、横田地域の小学校三・四年生二十八人が参加しました。

初日は、あいにくの雨となりましたが、穴道湖でサバニ(大型カヌー)を体験し、子どもたちは「イチニ、イチニ」と声を掛け合いながらオールを漕ぎ、みんなで協力することの大切さを学びました。

二日目は、新聞印刷工場を見学したほか、子ども達一人ひとりが、研修の思い出を家族に宛てたハガキを作成し、投函して帰りました。

子供たちは、普段体験できない穴道湖での湖面活動や共同生活を通して、夏休みの思い出づくりや学校、学年を超えた友達づくりができました。



広がる ボランティアの輪 馬木小学校、幼稚園、保育所で清掃作業

九月二日、馬木地区の婦人会、健康クラブ(老人クラブ)の会員約百人が、馬木小学校の児童や馬木幼稚園・保育所の園児と一緒に周辺の清掃活動を行いました。

作業は、ホタルの住む川として、地域や学校で大切にしている校内を流れる砂田川の清掃や校庭の草取りなどを行いました。

児童たちは、地域の方とともに汗を流し、自然の大切さや共に働くことの喜びを感じていました。



▶サバニ(大型カヌー)を漕ぐ小学生